

(2) ヒアリング調査で把握された課題、支援のあり方に関する考えの概要

ヒアリング調査対象者が関わりを持っている保護者・子どもに見られる課題

支援のあり方に関する考え

保
護
者

【金銭面での課題】

- 精神疾患（うつ病等）や障害等で働くことができない、仕事が長続きしない保護者がいる。
- ひとり親で子どもが小さいうちはパートでしか働くことができない、遅くまで働けない保護者がいる。
- お金が子どもに使われないなど、お金の使い方に課題が見られる家庭がある。

【精神疾患等、心理的な不安定】

- 保護者に精神疾患や障害があり、子どもの世話をすることができない保護者がいる。
- ネグレクトや虐待の課題がある保護者がいる。
- 保護者自身も生い立ちの中で虐待やDV等を受けたことがある。

【子どもと過ごす時間の制約】

- 昼と夜とで複数の仕事をしているなど、忙しくて子どもと向き合う余裕がない家庭がある。
- 保護者が夜の時間帯に仕事をしている間、子どもだけで家にいる家庭がある。
- 仕事の拘束時間が長い、時間を減らすと収入も減ってしまうという家庭がある。

【社会的孤立】

- コミュニケーションが苦手で保護者同士の輪の中に入っていくことができない人がいる。
- 深刻な状況にある保護者ほどダイレクトに支援を要請することができない傾向がある。
- 経済的な貧困状態を知られたくないためにあえて周囲とのつながりを持たない人がいる。

子
ど
も

【生活習慣・健康に関する課題】

- 身体や衣服の清潔、健康状態に課題が見られる子どもがいる。
- 朝ごはんを食べておらず食事の内容にも偏りが見られる子どもがいる。
- 昼夜逆転しており、朝起きられず保育園や学校等に行けない（保護者が送り出せない）子どもがいる。

【学習に関する課題】

- 学習の環境が整っていない家庭があり、宿題や提出物が遅れ、学習意欲も低下する傾向がある。
- 障害などもあり、がんばってもどうしても勉強ができない子どもがいる。
- 金銭的に塾に通うことができないため、学習時間が足りず、勉強がわからない時に質問ができない子どもがいる。

【自己肯定感・意欲に関する課題】

- 自信がなく、前向きな気持ちが長続きしない、様々なことに劣等感を持っている子どもがいる。
- 保護者からの虐待等も影響し、自分はいなくてよい存在だと口にする子どもがいる。
- 将来へのイメージがわからない、長期的な視野に立って考えることができない子どもがいる。

【居場所・経験に関する課題】

- 遊びなどを通じた経験が不足している子どもやゲームばかりしている子どもがいる。
- 色々な大人との関わりが不足している子どもがいる。
- 集団の場になじめず不登校になる子どもがいる。

【人間関係に関する課題】

- 発達に問題があり、周りとのコミュニケーションがうまく取れない子どもがいる。
- 他者に対する不信感が強く、関わりを持とうとしない子どもや寂しがり屋で甘えすぎる子どもなど、他者との距離感が測れない子どもがいる。

【その他】

- 何らかの課題を抱えながら、支援につながっていない子どもも多くいるのではないかと。
- 学期途中に来日するなど、日本語の学習や文化の違いなどに課題を抱える子どもがいる。
- 大学等に進学した後の就職の際や、奨学金の返済にあたり課題が表出することがある。

【保護者への支援体制・環境整備の必要性】

- 様々な課題が複合的になっているため、横断的な支援が必要である。
- 相談内容によって分かれるのではなく、総合的にサポートし気軽に相談できる場所が必要である。
- 慣れない土地での育児で頼れる人がいない場合には、相談事に限らず雑談できる場所も必要である。

【子どもへの支援体制・環境整備の必要性】

- 役割がある、褒められる、存在が認められる居場所が多様な形態であることが重要である。
- 「貧困」というレッテルを貼ることがないように、全ての子どもたちへの対応が必要である。
- 中長期的に関わり、支援をコーディネートするような人材が必要である。